

防災推進国民会議の活動報告

令和 7 年12月18日
第11回防災推進国民会議



防災推進国民大会（ぼうさいこくたい）2025開催概要



大会趣旨・大会テーマ

【大会趣旨】「自助・共助」、「多様な主体の連携」及び「地域における防災力の向上」を促進するため、国民の防災意識の向上、災害に関する知識や経験等の共有、防災に取り組む方々の連携構築を図る。

【大会テーマ】語り合い・支え合い ～新潟からオールジャパンで進める防災・減災～

【大会概要】(日時)2025年9月6日(土)・7日(日)

(会場)朱鷺メッセコンベンションセンター(新潟市)

(実績)出展団体数:約470団体、現地来場者数:約1万9千人

※愛子内親王殿下が9月7日(日)に御臨席され、ボランティア関係2セッションを御聴講

(御聴講セッション)「災害福祉支援 ～令和6年能登半島地震の取り組みと課題、今後の展望～」(主催団体:災害福祉支援ネットワーク中央センター)
「能登半島地震の事例から、支援で目指す姿を考える」(主催団体:全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD))



内閣府主催セッション

オープニングセッション ・ 主催者（坂井大臣、清家議長）による挨拶 等

ハイレベルセッション ・ 学識経験者や地元関係者によるパネルディスカッション
(テーマ:中越地震等と復興・災害への備え)

クロージングセッション ・ 地元高校生登壇の特別企画 ・ 主催者（鳩山副大臣、秋本副議長）による挨拶 等

他のプログラム例

○セッション

特定のテーマについて有識者等が議論

○ワークショップ

カードゲームや、ボードゲーム、かるた等、来場者に参加いただき、楽しく防災を学んでいただくプログラムを実施



セッションの様子



ワークショップの様子

○屋外展示（テント・車両）

災害用トイレや、災害医療トレーラー、キャンピングカー、地震体験車、救助関係車両等を展示



車両展示

○ブース展示・パネル展示

各団体等の活動をブースやパネルで紹介

○オリジナル企画

出展タイプに拘らない自由な出展形態



ブース展示

火山防災に関する普及啓発



令和5年に活動火山対策特別措置法の一部が改正され(令和6年4月施行)、8月26日が新たに「火山防災の日」と定められたことを踏まえ、国民の火山防災意識の向上・定着に資する普及啓発に取り組んでいる。

○「火山防災の日 啓発イベント」の開催

令和6年に改正活火山法が施行され、8月26日が「火山防災の日」に制定されたことを踏まえ、国民の間に広く活動火山対策についての関心と理解を深めるため、「ぼうさいこくたい2025in 新潟」において**火山防災の日 啓発イベントを開催。(今回で2回目)**

<開催概要>

- ・日 時:令和7年9月7日(日)14:30~16:00
- ・主 催:内閣府(防災担当)、新潟焼山火山防災協議会(新潟県)
(共催:火山調査研究推進本部、気象庁、国土地理院
後援:火山防災強化推進都道県連盟、火山防災強化市町村ネットワーク)
- ・開催場所:朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター内 スノーホールA
(オンラインによる同時配信・後日アーカイブ配信)
- ・開催内容:「火山防災を踏まえた地域防災力の強化」をテーマに基調講演、
「新潟県の活火山「新潟焼山」から考える、地域住民の火山防災意識の向上」
をテーマにトークセッションを実施



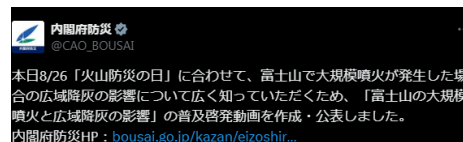
ぼうさいこくたい
HPへのQRコード



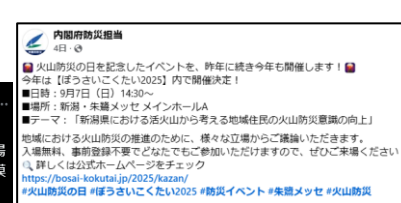
火山防災の日 啓発イベント

○「火山防災の日」関連のSNS発信

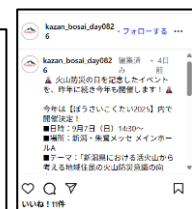
- ・活動火山対策についての関心と理解を深めるようにするため
**普及啓発・イベント関連内容をX、Facebook、Instagram
に投稿。**



内閣府防災 公式X



内閣府防災
公式Facebook



「火山防災の日」
公式Instagram

<8月26日「火山防災の日」の由来>

国民の間に広く活動火山対策についての関心と理解を深めるため、8月26日が新たに「火山防災の日」と定められた。これは、日本で最初の火山観測所が浅間山に設置され、観測が始まった日である明治44年(1911年)8月26日が由来となっている。国及び地方公共団体は、「火山防災の日」には、防災訓練等その趣旨にふさわしい行事が実施されるように努めることとされている。



浅間火山観測所

「津波防災の日」・「世界津波の日」における普及啓発の取組



【背景】

東日本大震災（2011年3月11日）

- 津波は、ひとたび起きれば、その被害は甚大であり、被災範囲も広いのが特徴です。東日本大震災では、津波や津波からの避難方法を知らないために多くの方が犠牲になりました。



津波による被害（宮城県気仙沼市）

11月5日「津波防災の日」

- 東日本大震災を教訓とした「津波対策の推進に関する法律（2011年6月）」により、11月5日が「津波防災の日」として制定されました。
- これは、嘉永7年（1854年）11月5日の安政南海地震（M8.4）で和歌山県を津波が襲った際に、稲に火を付けて、暗闇の中で逃げ遅れていた人々を高台に避難させて命を救った「稲むらの火」の逸話にちなんでいます。



稲東（稲むら）に火をつける濱口梧陵

11月5日「世界津波の日」

- 「第3回国連防災世界会議」や「持続可能な開発のための2030アジェンダ」のフォローアップとして、2015年12月、国連総会で、我が国をはじめ142カ国が共に提案し、11月5日を「世界津波の日」として制定する決議が満場一致で採択されました。
- 「津波防災の日」である11月5日が2015年12月の国連総会決議において「世界津波の日」とされたことも踏まえ、「津波対策の推進に関する法律」に、国際協力の推進に資するよう配慮する旨の規定を追加。



第70回国連総会本会議の様子

【取組】

1. 啓発ポスター等の作成・配布

- ポスター A2版 約5,500部
各自治体、指定公共機関等に配布。
- レジディスプレイ、デジタルサイネージ
（R7年度は、JR西日本、イオングループ等にデータ提供。）



2. 「津波防災の日」啓発イベントの実施

- 毎年、11月5日に「津波防災の日」啓発イベントを実施しています。
- 令和7年度は、「南海トラフ地震等を見据えた国民の防災意識向上と行動変容について」をテーマとして、令和7年度「津波防災の日」スペシャルイベントをオンラインで開催しました。



3. 「津波防災の日」特設サイトの設置

- 津波防災に関する意識向上等、普及に資する効果的な広報活動の展開のため「津波防災の日特設サイト」を設置しています。



4. 教育コンテンツの作成

- 津波防災啓発動画を内閣府HPに掲載しています。岩手県釜石市と高知県黒潮町の防災取組を、中学生や現場で実際に関わっている方々のインタビューを交えながら、防災教育を中心に紹介しています。



「津波でんでんこ」の教え
（内閣府HPより）



「いのちを守る防災教育」を語る釜石中学生
（内閣府HPより）

令和7年度「津波防災の日」スペシャルイベント



11月5日の「津波防災の日」にスペシャルイベントを開催。様々な主体や視点から津波防災に取り組む方々の活動を発信することで、国民の津波防災意識の向上・定着を図る。

開催概要

【日 時】 令和7年11月5日（火）14:00～16:30

【開催形式】 オンライン（YouTube）開催

【プログラム】

○開会挨拶 あかま 二郎（内閣府特命担当大臣（防災））（ビデオメッセージ）

○基調講演

講演者 片田 敏孝（東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター 特任教授）

「南海トラフ地震等を見据えた国民の防災意識向上と行動変容について」

○事例紹介

岩手県釜石市唐丹町荒川地区

報告者 土橋 照好（釜石市防災危機管理課長）

高知県高知市下知地区

報告者 皆本 隆章（下知地区減災連絡会会長）

山中 晶一（高知市防災政策課長）

○パネルディスカッション

事例紹介者及び有識者が、意見交換を実施

コーディネーター：片田 敏孝（東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター 特任教授）

パネリスト：鍵屋 一（跡見学園女子大学観光コミュニティ学部 教授）

磯打 千雅子（香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 地域強靱化研究センター 准教授）

土橋 照好（釜石市防災危機管理課長）

皆本 隆章（下知地区減災連絡会会長）

山中 晶一（高知市防災政策課長）



開会挨拶（あかま防災担当大臣）



パネルディスカッションの様子



津波防災の日ポスター

* 敬称略

- TEAM防災日本は、内閣府と協力して、全国各地で活躍する多様な防災の担い手を育成・応援するための人材ネットワーク。防災の担い手にとって有用なコミュニティや企業等による共助の防災活動等に関する情報をポータルサイトやSNS等で紹介。オンラインも活用して参加者の交流・情報交換を促進。
- ぼうさいこくたいでは、内閣府と連携して、出展者等の交流や情報交換を図るための「大交流会」等を開催。

ポータルサイト



<https://bosaijapan.jp/>

メールマガジン・SNS

- 全国の防災の担い手に向けて、コミュニティや企業等による共助による防災活動等に関する情報を定期的に発信するメールマガジンを発行（登録者：約1,300人）
- SNS（Facebook、Twitter）でもセレクトした情報を発信。

ぼうさいこくたいでの多様な防災の担い手との交流

- ぼうさいこくたい2025での「大交流会」の開催
ぼうさいこくたい2025において、内閣府と連携して、出展者等が交流や情報交換を行うための「大交流会」を開催し、127団体が現地参加。
- ぼうさいこくたい2025での「オリジナルセッション」の開催
ぼうさいこくたい2025では、下記のテーマによる「オリジナルセッション」を開催。
ジェンダー視点の被災者支援の意義と実際
～男女共同参画センターの活動及び多様な主体の連携の視点から考える～



アドバイザー

鍵屋 一（跡見学園女子大学教授）
中川 和之（時事通信社客員解説委員）
福和 伸夫（名古屋大学名誉教授）
加藤 孝明（東京大学教授）
浅野 幸子（減災と男女共同参画研修推進センター共同代表）
阪本 真由美（兵庫県立大学教授）
臼田 裕一郎（防災科学技術研究所）